

おもな別尊曼荼羅

◎如来部

釈迦曼荼羅

釈迦、四菩薩（十一面観音、普賢、文殊、弥勒）

阿弥陀曼荼羅

敬愛、鈎召、阿弥陀悔過における滅罪、追善

①阿弥陀、八大菩薩

不空訳『八大菩薩曼荼羅経』

②観音（観自在）、八弁に八体の定印阿弥陀、内四供、外四供、四摂

主尊が阿弥陀ではなく観音

不空訳『無量寿如来念誦儀軌』『無量寿如来観行供養儀軌』、覚鑿『五輪九字明秘密积』

→颯川美術館本（鎌倉）

③阿弥陀、金剛法、利、因、語

知恩院紅頬梨阿弥陀像

仏眼曼荼羅

四種の護摩、とくに息災、降伏、安産祈願

東密では保延二年（1136）勸修寺寛信以降。

仏眼仏母（胎蔵界大日と同体、大金剛吉祥母）、八葉蓮華に一切仏頂輪王（一字金輪、釈迦金輪）

と七曜、八大菩薩、八大明王、内院の四隅に内四供、外院に外四供、四摂、八方天

*すべて獅子冠をかぶる

『瑜祇経』（『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』）「金剛吉祥大成就品」

→神光院本（平安後期）

◎仏頂部

大仏頂曼荼羅：大仏頂法

- ・息災、増益
 - ・一字金輪法の本尊としても用いられ、一字金輪曼荼羅とも密接な関係
 - ・平安後期から鎌倉にかけては皇太后の息災や女院の誕生などの私的な目的としても修された。
- 中央は大日金輪（＝法身）、その上は釈迦金輪（＝応身）、大日の周囲には七宝と輪宝。右下は九頭竜と二龍神、左下に七頭龍と龍神、夜叉形の従者。波間に怪魚。
- 大日金輪は五仏宝冠、智拳印。釈迦金輪は定印の上に八輻輪宝。
- 上方虚空の左右に蓮華座上の宝瓶（向かって左）と三鈷杵（右）。
- 典拠は不明
- 奈良博本（平安後期）

一字金輪曼荼羅：一字金輪法、金輪王法

- ・息災、止雨、除病、延命に効果あり
- ・院政期には天候不順を払うためや、院の息災のために行われた
- ・立太子の際の仏眼法とともに金輪法が修された

八葉白色蓮華の中央に金輪仏頂（大日金輪）、その周りに七宝と仏眼仏母

日輪中の金輪仏頂は、五仏宝冠、智拳印、三鈷杵を嚙む七獅子の上の蓮華座。蓮弁の間には三鈷杵。

『金輪応仏頂略出念誦法』

『金剛頂經一字頂輪王瑜伽一切金輪時処念誦成仏儀軌』

①大日金輪の下に輪宝を置くタイプ

→奈良博本（平安後期）、奈良・北村家本、島根・鰐淵寺本

②大日金輪の下に仏眼仏母を置くタイプ 七獅子が前足を立て、日輪の外に表される。

→高野山遍照光院本（承久二年（1220）醍醐寺地蔵院の深賢が、醍醐寺遍智院の成賢から伝領）、奈良・南法華寺本

③唐本 大仏頂曼荼羅。大日金輪の下方に三弁宝珠を置き、仏眼仏母を欠き、大日金輪の上方に釈迦金輪

→奈良博本

尊勝曼荼羅：尊勝法

息災、増益、滅罪、安産

①除障仏頂（金剛界大日如来と同体、三鈷をくわえた七獅子にのる）と八大仏頂。向かって左に

不動、右に降三世、中央に香炉、上方左右に三体ずつの須陀恵天（しゅだえてん）

中央の大日如来は智拳印（経典は法界定印）、七獅子座。

下から左回りに尊勝、広生、最勝、無辺声、光聚、発生、白傘蓋、勝の各仏頂

下方向かって右の半月に三目四臂で、片足を蹴り上げた降三世、右の三角の中には瑟瑟座に坐る不動。中央は香炉（護国寺本では水瓶と花器も）

善無畏『尊勝仏頂修瑜伽法儀軌』＝二巻軌。Cf. 弥勒曼荼羅

→東京・護国寺本（鎌倉）、光台寺本、園城寺本、宝壽院本、文化庁本、ボストン美術館本

②胎藏大日、八大菩薩、不動、降三世

不空訳『仏頂尊勝曼荼羅陀羅尼儀軌』＝一卷軌

③円珍請来様 金剛界大日如来、不動、降三世の三尊のみからなる。大日如来は五仏の宝冠をいただく。降三世は一面二臂、五仏宝冠をかぶり、右手に五鈷杵、左手は拳、瑟瑟座。不動は胎藏曼荼羅の姿。

降三世と不動は善無畏儀軌とは逆の位置。

白描図像によれば智証大師円珍請来様の極秘伝のもの。

→大阪・金剛寺本 Cf. 金剛寺金堂の彫像

◎諸経部

仁王経曼荼羅：仁王経法

- ・護国のために弘仁元年（810）高雄山寺で空海が初めて行う
- ・空海没後、平安半ばまでは仁王会におされてふるわなかった
- ・11世紀に曼荼羅が形成

『仁王護国般若波羅蜜多経道場念誦儀軌』など

- ・四種の修法によって方位が異なる。

①増益で上が東。真言院小野流の祖仁海が如照に描かせた。

→醍醐寺本、大阪・久米田寺本

②息災で上が北。醍醐寺三宝院の定海がのちに珍海に描かせた

→山口・神上寺本、広島・浄土寺本。

左手に輪宝を持つ不動。四方に金剛手、金剛宝、金剛利、金剛葉叉の四菩薩、四隅に内四供、第二院は四大明王、四隅に宝瓶。外院は四摂、外四供、四天王、帝釈天、火天、水天、風天。カルラ炎。

火天、水天、風天を加えるのは仁海の創意

理趣経曼荼羅

①内院中央に胎藏大日、そのまわりに八大菩薩、第二院に四摂、内四供、第三院に外四供、大自在天らの四神。

→醍醐寺本

②中央に金剛薩埵、上下左右に五秘密、四隅に外四供、外院に内四供、四摂。

→大覚寺本

法華曼荼羅図：法華経法

①第一院は釈迦・多宝の二仏併坐の多宝塔、八葉蓮弁に弥勒等の八大菩薩、四隅に四大比丘（須菩提、迦葉、舍利弗、目連）。第二院は四摂、外四供、大勢至等の八大菩薩。第三院は四隅に四大明王、四方に四天王、梵天、帝釈、大自在天、難陀龍王などの天部。第三院の諸尊の間には火炎に包まれた三鈷杵。

不空訳『法華曼荼羅威儀形色法経』『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』

→法隆寺本（平安後期）、京都・松尾寺本、奈良・唐招提寺本、兵庫・太山寺本

②二重院構成

八葉蓮弁に八大菩薩。弥勒、文殊、薬王、妙音、常精進、無尽意、観世音、普賢

外縁部に通常の2重目の十六菩薩と四大明王（不動、降三世、軍荼梨、烏枢沙摩、いずれも立像）。

→香川・萩原寺本

請雨經曼荼羅図：請雨經法

・小野流でおこなわれた祈雨修法（広沢流は孔雀經法。ほかに水天法、熾盛光法、俱利伽羅法、善女龍王法などがあり）

・白描であることに注意。儀礼当日のみで完成させる必要があった。

・池に面して壇をもうけ、すべて青色の用具を使用。

膠を用いず墨絵で描き、早筆の絵師により一日のうちに二図とも仕上げる。

七宝水池中の海龍王宮に住する釈迦（説法印）、その右に観音、左に金剛手。右前方に輪蓋龍王、左に難陀、跋難陀（ばつなんだ）龍王。外院の四方に一体ずつの龍王

『大雲輪請雨經』「祈雨壇法」

→東寺本（鎌倉）

孔雀經曼荼羅：孔雀經法

息災、天変、病氣平癒、安産、祈雨

構成は胎藏界にならう（別尊曼荼羅の中では珍しい）。

第一院に孔雀明王、過去七仏と弥勒、その外の四方に四辟支仏、四隅に四大声聞、第二院は八方天と六人ずつの眷属、第三院は四方四隅に二十八葉叉、その間に九曜、十二宮、二十八宿『大孔雀明王画像壇場儀軌』『仏母大孔雀明王經』

→大阪・松尾寺本（鎌倉）

宝楼阁曼荼羅：宝楼阁經法

滅罪追善、堂塔供養。

楼阁中に説法印の釈迦如来、その右に四面十二臂の金剛手、左に四面十六臂の摩尼金剛菩薩。楼阁周囲に四天王、楼阁前庭中央に法輪、左に金剛使者天女と吉祥天、右に花齒天女と◎（食へんに向）棄尼天（しょうきにてん）。虚空に梵天、毘紐天、大自在天

①不空訳『大宝広博楼阁善住秘密陀羅尼經』＝『宝楼阁經』「建立曼荼羅品」第七 東密

→旧東寺宝菩提院本（鎌倉）四門に訶梨帝母、大自在天、花齒羅刹女、毘摩天女。宝瓶、矢、小幡。

②同経「画像品」第八 台密

→フリア美術館本

童子經曼荼羅：童子經法

小児の保命、長寿

中央に獅子冠をかぶり、三叉戟（十五鬼神の首を貫く）を持つ栴檀乾闥婆王、
周囲に十五童子（そのうち二童子を訶梨帝母が抱く）、十五鬼神

『護諸童子陀羅尼經』

小短冊形に十五鬼神の名称とそれぞれがもたらす病患。

→京都・智積院本（鎌倉）、MOA 美術館本、福井・万徳寺本

般若心經曼荼羅：般若菩薩法、心經法

神明（神々の法楽）

三目二臂の般若菩薩、右手与願印、左手梵經。獅子座の蓮華座に結跏趺坐。

梵天帝釈、上方に釈迦と須陀会天。外院に十六善神＝四隅に四天王、四辺に十二神将

『陀羅尼集經』『般若波羅蜜多大心經』

→醍醐寺三宝院本（鎌倉）

◎観音部

六字経曼荼羅：六字法 Cf. 六字河臨法（台密）

調伏、息災「本尊六字曼荼羅の前で、六字経典を読誦し、火炉で天狐地狐人形を焼いてその灰を服し、もって呪詛調伏安産長寿などの現世利益を祈祷する」

中心に釈迦金輪（金輪仏頂）、定印の上に八輻輪、身体のまわりにも七つの輪宝。

まわりに六観音（聖観音、千手、馬頭、十一面、准提、如意輪）。千手のみ六面二臂で、他はすべて一面二臂。仁海所説の注進文による天台六観音と同じ。六道に対応し、聖観音の地獄から天の如意輪に至る。

六観音の傍らに種子、下方中央の海中の岩上に円鏡、そのまわりに六体の呪詛神、向かって左に大威徳、右に不動。上方に飛天。

→醍醐寺本（南北朝）旧三宝院本、理性院流の説による

醍醐寺本 旧報恩院本、紺絹金泥絵

◎菩薩部

八字文殊曼荼羅：八字文殊法

- ・天台の四箇大法（しかだいほう）の一つ（他の三つは熾盛光法、普賢延命法、安鎮法）
- ・850年、宮中の仁寿殿で行ったのが最初
- ・日食月食などの天変を払ったり、祈雨法に用いる
- ・平安後期には産生などの個人的目的にも対応

内院は八字文殊、八髻八仏をいただき、梵経上に五鈷杵をのせた蓮華の茎を左手に、剣を右手にとる。八大童子（いずれも獅子に乗る）、両者の間に八字の種子、四隅に四大明王。

外院は四方に四摂菩薩、四隅に外四供、あいだに八天と天后

『大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌法』＝『文殊八字軌』 台密の円仁と東密の恵運らが請来

→高野山正智院本（鎌倉）、メトロポリタン美術館本

弥勒曼荼羅：弥勒法

息災、滅罪

五仏宝冠を戴く弥勒、両手で説法印、宝塔をのせた蓮華を左手に。（後世は宝塔から五輪塔に変わる）

四方に四波羅蜜、四隅に内四供。下方、向かって右に不動、左に降三世。

上方左右に三体ずつの首陀会童子。

月輪の井桁に金剛杵と宝塔。

善無畏訳『慈氏菩薩略修瑜伽念誦法』「画像品」

→東京・霊雲寺本（鎌倉初期）

五大虚空蔵曼荼羅：五大虚空蔵法

息災、増益

治安元年（1021）に小野流仁海が行った金門鳥敏（かのととりどし）法に始まる

五大虚空蔵（五智如来と同体）、中央が白、前が黄色、以下右回りに、青、赤、黒紫色。

神護寺や東寺観智院の彫像もこれに関連。

『瑜祇経』卷下「金剛吉祥大成就本」第九

→京都・大覚寺本（鎌倉中期）、高野山西南院本、広島明王院五重塔初層板絵（東京国立博物館所蔵）

◎忿怒部

安鎮曼荼羅：安鎮法

十二天曼荼羅：十二天法、十二天供

鎮宅法（御所新造の折りに修する）、災害消除、国家安泰

四臂の不動。八方天と天地日月、眷属を伴う。（『供養護世八天法』『十二天供儀軌』）

空海請来の醍醐寺本「十天形像」（じってんぎょうぞう）の像容に一致

→山口・国分寺本（鎌倉）

愛染曼荼羅：愛染法

敬愛

①西が上。中央は愛染、内院の四方は四金剛菩薩（東から順に欲、触、愛、慢）、四隅に四金剛女（＝外四供）。外院は四摂、内四供

不空訳『大楽金剛薩埵修行成就儀軌』

→根津美術館本（鎌倉）

②内院の四方に四金剛菩薩（愛、慢、欲、触）、四隅に四金剛妃（愛妃、慢妃、欲妃、触妃）、外院は四方に四摂、四隅に外四供。

不空訳『金剛王菩薩念誦儀軌』

→京都・随心院本

異本 内院四隅に四大明王、外院に十二天を配する

→兵庫・太山寺（たいせんじ）本

吉祥天曼荼羅：吉祥天法

増益

宝珠を持つ吉祥天、梵天、帝釈天、四天王、六牙の蔵が宝瓶から宝を降らせる。背景には七宝山や宝華林

『陀羅尼集経』「功德天法」

→MOA 美術館本／旧東寺観智院本（鎌倉）

閻魔天曼荼羅：閻魔天供、冥道供（追善）

除病、息災、延寿、産生

①19 尊からなり、重院を構えない。忿怒形の閻魔天の左右に閻魔天妃と閻魔天后、その下には太山府君（たいざんぷくん）、左右に司命（しみょう）と司録（しろく）、その下に五道大神。閻魔天のまわりに右上から左回りに天曹府君、地府大將軍、地府善神、毘伽羅神、上に梵天、帝釈

天、全体の四隅に四天王。十九位曼荼羅とも呼ばれる。台密

『阿沙婆抄』

→京博本（鎌倉）、園城寺本、法隆寺本

②二重院形式。菩薩形の閻魔天、閻魔天妃、閻魔天后、上に太山府君、下に五道大神、司命と司録。中央左右に荼吉尼、遮文拏（しゃもんだ）、上方左右に成就仙、毘那夜迦 東密

→木崎家本、神奈川・称名寺本（下辺に閻魔天王、上辺に梵釈二天）、東寺観智院旧蔵本、醍醐寺本

北斗曼荼羅、星曼荼羅：北斗法、星供

息災

釈迦金輪が中尊

『北斗七星護摩秘要儀軌』

①方形 仁和寺成就院寛助

二龍王のとりまく須弥山上に一字金輪仏頂（釈迦金輪）、下方に北斗七星、中央と周囲に九曜
第二院は十二宮、第三院は二十八宿。

→久米田寺本

②円形 天台座主慶円

→法隆寺本

第三重が十二宮、第四重が二十八宿

方位も久米田寺本と異なる。